

朝日小学生新聞



2面 宇宙の外側は？

4面 ニュースの時間

8面 パパモッコ



国連広報センター所長
根本かおるさんに聞く

国際理解を深めるヒント

よりよい世界をつくるためには——。全国12の新聞社の子ども記者が集まり、世間に向けて提言を発表する「第7回子ども新聞サミット」が27日、東京で開かれます。朝小の代表として参加する藤田めぐみさん（5年・神奈川県）、中山桃樹さん（4年・東京都）が、「国連広報センター」（東京都）の所長、根本かおるさんを取材しました。国際理解を深めるための「三つの大事なこと」を学びました。（中尾浩之）

みさん（5年・神奈川県）、中山桃樹さん（4年・東京都）が、「国連広報センター」（東京都）の所長、根本かおるさんを取材しました。国際理解を深めるための「三つの大事なこと」を学びました。（中尾浩之）



世界の人と仲良くなるために大事なことを教えてくれた国連広報センターの根本かおる所長＝これも2月、東京都渋谷区の国連大学本部ビル

「子ども新聞サミット」を前に朝小代表が取材



藤田めぐみさん

文化はいろいろ
多様性を楽しむ

「国連難民高等弁務官事務所」で働いていたときのことです。アフリカで「最も貧しい国」といわれるブルンジで、根本さんはお祝いの席に呼ばれました。日本では食べられない動物の料理や、見たことのないお酒が運ばれてきました。「その国の人々には精いっぱいのごちそうです。自分の感覚で否定してしまえば、相手の心を



中山桃樹さん

「あ、こんな料理もあるのか」と、多様性を楽しむことができました。その後、さらに広く国際機関の仕事をしたと考えた根本さんは、2019年から国連広報センターの所長を務めています。藤田さんは「外国の人とのやりとりで心がけていること」を聞きまし

サミットは、参加12社が三つのチームに分かれます。朝小が所属するチームのテーマは「国際理解を深めるためには」です。このテーマをチームで話し合う前に、藤田さんと中山さんは「世界の現実を知っている人に直接話を聞きたい」と考えました。そこ

で国際連合（国連）の取り組みについて発信している、国連広報センターの所長、根本かおるさんにインタビューしました。根本さんは、テレビ局の記者やアナウンサーなどをへて国連の機関の一つ「国連難民高等弁務官事務所」で15年間、働きました。



サミットは27日、日本科学未来館（東京都江東区）で開かれます。

参加する12の新聞社は「国際理解を深めるためには」「人手不足」「地球を守るために私たちができること」について、チームごとに考えます。朝小を発行する朝日学生新聞社は、信濃毎日新聞社（長野県）、神戸新聞社（兵庫県）、沖縄タイムス社（沖縄県）と同じチームです。

本番に向け、事前取材や話し合いを重ねてきました。本番の様子は後日、朝小紙面で紹介します。

「オープンマインド」で相手を知る



◇根本さんが国連の活動について紹介する連載が、朝小で4月から始まります

「まずは目の前の人の考え方や気持ちを受け止めること」と根本さん。自分にとっての「当然」が、他の国の人の「当然」とかきりません。「相手とのちがいを大きな心で受け止めようとする」姿勢のことを、根本さんは「オープンマインド」と紹介しました。一方、中山さんは「世界の人々のため私たちができること」を質問しました。

根本さんは「厳しい状況にある世界の人々の存在を知ってほしい」と強調しました。「情報を得る手段には今はいろいろな方法があります。できることから、聞いて調べていくってほしい」と呼びかけました。オープンマインドで相手を受け止めるには、相手を知ることが大切です。「自分のことを知ろうとしてくれると、誰でもうれしいですよ」と根本さん。